

## オオハクチョウと酷似した嘴の模様を持つ 特異なコハクチョウの記録

桐原佳介

(財) 中海水鳥国際交流基金財団, 683-0855 米子市彦名新田665

### はじめに

日本に飛来する野生のハクチョウは、おもにオオハクチョウ *Cygnus cygnus* とコハクチョウ *Cygnus columbianus bewickii* である。両種の識別点のうち、もっとも一般的なものは嘴の模様が異なる点であるが、1999年冬に島根県安来市と米子水鳥公園に飛来したコハクチョウの中に、オオハクチョウと酷似した嘴の模様をもつ特異なコハクチョウの幼鳥を1羽確認したので、ここに報告する。

### 米子水鳥公園に飛来するハクチョウ

米子水鳥公園は、西日本最大のコハクチョウの越冬地である。米子水鳥公園では毎年約1,000羽のハクチョウ類が越冬するが、そのほとんどがコハクチョウで、オオハクチョウは全体の1割以下に当たる数羽程度しか飛来しない。コハクチョウの亜種であるアメリカコハクチョウ *C.c. columbianus* の飛来記録もある。

### オオハクチョウとコハクチョウの識別点

オオハクチョウとコハクチョウの主な識別点は、以下のとおりである。

- (1) 体の大きさ
- (2) 嘴の模様
- (3) 体型（嘴や首の長さ）

オオハクチョウは全長140～165cmであるのに対し、コハクチョウは全長115～150cmであり、オオハクチョウよりもコハクチョウの方がやや小さい(桐原ら2000)。しかし、屋外での観察では、体の大きさは観察者によって捉え方がまちまちであったり、オオハクチョウの最小個体よりもコハクチョウの最大個体の方が大きい場合もあるので、(1)に挙げた大きさだけによる識別は難しい。

そこで、両種の識別に有効となる点は、(2)、(3)に挙げた嘴の模様と体型である。一般に、オオハクチョウの嘴の模様は、先端が黒く、嘴基部から先端にかけての黄色部が鋭角に黒色部に食い込んでいる(図1)。そして、オオハクチョウの嘴の模様は個体差に乏しく、いずれの個体もよく似た嘴の模様をしている。一方、コハクチョウの嘴の模様は、嘴先端の黒色部が広く、嘴基部から先端にかけての黄色部が丸み

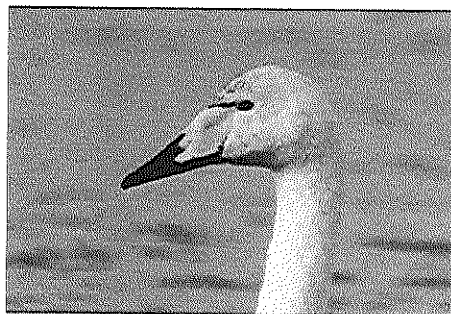


図1. オオハクチョウ成鳥の横顔。

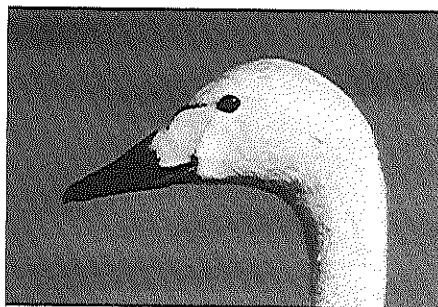


図2. コハクチョウ成鳥の横顔。

を帯びた形で黒色部に食い込んでいる(図2)。さらに、コハクチョウの嘴の模様は個体差が大きく、嘴がほとんど黒い個体もいれば、黄色部がとても広い個体もある。

(3)に挙げた体型の違いについて考えると、オオハクチョウは嘴や首がコハクチョウと比べると細長く、全体にほっそりとした体型をしている。横顔は、嘴が長くて、嘴先端から頭頂部にかけてなだらかな傾斜を描いている。一方、コハクチョウはオオハクチョウと比べて首が太短く、ずんぐりとした体型をしていて、嘴もやや短めである。

#### 米子水鳥公園で確認された特異なコハクチョウ

ほとんどの場合、上述の識別点でオオハクチョウとコハクチョウの識別は可能である。しかし、この度米子水鳥公園で確認されたコハクチョウは、嘴の黄色部が黒色部に鋭角に食い込んでおり、オオハクチョウの特徴を備えている(図3)。

この個体は、体が小さいこと、嘴や首が短めの体型をしていることなどから、総合的に判断してコハクチョウだと判断できる。しかし、このコハクチョウは、横顔の嘴の模様による識別では、オオハクチョウと同定される可能性が高い。

#### 特異なコハクチョウの行動記録

はじめてこの個体を発見した場所は、1999年2月25日、島根県安来市内の水田地帯



図3. 特異なコハクチョウ成鳥の横顔。



図4. 島根県安来市の水田地帯で採餌中の特異なコハクチョウ(右)とオオハクチョウ幼鳥(左).

である(図4)。このとき、この個体はコハクチョウの成鳥1羽、オオハクチョウの幼鳥1羽に同行し、合計3羽で行動していた。翌日2月26日に、米子水鳥公園で先述の3羽と考えられるグループを確認した(図5)。その後、この個体は3月4日にも米子水鳥公園で確認されているが、このときはコハクチョウの成鳥は同伴しておらず、オオハクチョウ幼鳥1羽とだけ行動を共にしていた。その後については、この個体を確認できていない。

#### 考察

この個体は、形態にはコハクチョウの特徴が認められ、オオハクチョウとの中間的な形態が明瞭に認められないことから、純粋なコハクチョウである可能性が高い。

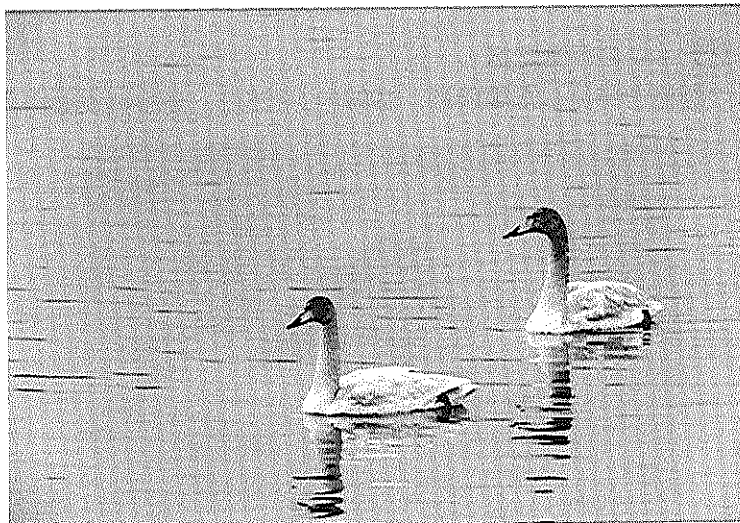


図5. 米子水鳥公園で確認された特異なコハクチョウ幼鳥(左)とオオハクチョウ幼鳥(右).

オオハクチョウとの交雑個体という可能性も否定しきれないが、この個体は両親と行動を共にしていなかったため、交雑個体かどうかは不明である。なお、オオハクチョウとコハクチョウの交雑例については、オオハクチョウと亜種アメリカコハクチョウとの交雑記録がある(黒田 1939)。

#### 引用文献

- 桐原政志・山形則男・吉野俊幸. 2000. 日本の鳥550・水辺の鳥. 文一総合出版, 東京.
- 黒田長禮. 1939. 雁と鴨. 修教社書院, 東京.